

# 週 報

2018. 7.29

「私達は神の業を行うために何を  
すべきでしょうか。」 (ヨハネ6:28)



AM10:30 主日礼拝

メッセージ：「祈ることの難しさ」

ヨハネによる福音書6章28節

メッセンジャー：衛藤陸雄

(イエス・キリスト企救エクレシア)

まねぎのことば

招 詞

(イザヤ40章31節)

「主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。  
走ってもたゆまず、歩いても疲れない」

深沢教会イエス・キリスト企救エクレシア (バス停・徳寿園入口から北へ20m)

〒802-0974 北九州市小倉南区徳力4-17-15

TEL/FAX : 093 (964) 2590

E-mail : [kikuecclesia@gmail.com](mailto:kikuecclesia@gmail.com)

URL : <http://kiku-ecclesia.2is1.jp>



祭司ザカリアの妻エリザベトは長年にわたって不妊に苦しみ、跡継ぎの息子を与え給えと神に必死に祈り求めてきました。エリザベトという名前には「神に誓う」という意味があります。彼女は不安や苦しみに押し潰されそうになりながらも、その名が示すように、神が救いを誓っておられることを信じて生き抜いた女性です。不妊は女性の落ち度とみなされた時代でしたから、罰とは言わないまでも、「サムエル記」のハンナが不妊に「悩み嘆いて主に祈り、激しく泣いて」長い祈りを捧げたように、エリザベトも「産まず女」と世間の冷たい視線を浴びて、不安に押しつぶされそうになりながらも、必死に祈り続けたのでしょう。神は長い年月をかけて、彼女の堅い信仰を確かめ、その祈りを聞き届けて下さいました。

2000 年以上前の女性の寿命は 45 歳くらいだったと言われています。現代でも 50 歳過ぎの女性の妊娠が話題になったくらいですから、エリザベトの年齢が定かではありませんが、おそらく当時の女性の老年期に入った彼女の妊娠は稀有なことで、神様の特別な御業と考えられたでしょう。

ザカリアが神殿の聖所で香を焚いて祈りを捧げる当番の時に、主の天使が現れ、「あなたのエリザベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい」と告げたのです。驚いたザカリアは、「私は老人です。妻も年を取っています」と彼の常識が神の良き知らせを否定したのです。「霊に対する冒瀆は赦されない」（マタイ 12：31）という御言葉があるように、ザカリアが思わず神の意志を否定した罰として、「主の天使」は彼の口を利けなくしてしまいました。一瞬主を疑った夫と違い、身籠ったエリザベトは神が自分に目を留めて「人々の間から私の恥を取り去って下さった」と主に限りない感謝を捧げました。

ザカリアは生まれた子の名を天使が告げたヨハネとすることに賛成した時、彼の舌がほどけて神を賛美し始めました。この奇蹟を見た人々は、生まれた子には主の力が及んでいると畏れを感じたということです。息子ヨハネは「悔い改めの洗礼」を人々に伝え実践しました。彼はイエスの先駆けと自認し、イエスを自分より力ある存在として讃えています。彼は母親の高ぶることのない高貴な謙讓の精神を受け継いだのでした。



Memo :



まだ若い二十代の頃の話。ある朝「神様が分かった！」と思ったことがある。

目覚めたばかりで、身体は横たわったままだが、「自分の“意識(心、精神)”が今、始まったばかり！」であることに気付いたのだ。当たり前の話だが、その時はことさらに意識がクリアで、圧倒的な真実であるように思えた。この手、身体、布団、天井、窓、そしてその外にある町並み、遠くの山などの“物質”とは全く別の“意識”という存在様式が、今この瞬間に自分に始まった！

これは「存在する」と言うより、「全てを覆っている」と言った方が正しい。現に私は今自分のことを考えると同時に、広い宇宙のことを考えることもできる。そこに明らかに“物質”とは違う“何か”のあり方がある。物質はここやあそこに縛られていて動けないし、それ以上のものではない。ところが“意識”は自由で、刻々と変化しうる。それは全く“物質”相とは異なるものだ。そしてこの“意識”は私一人にあるのではない。世界中の全ての人にある。ということは、それらの**大本**(おおもと)がどこかにあるはずだ。この空間を超えた異次元に。例えば、この“意識(心、精神)”は、今までどこに消えていたのか？ 目を覚ました瞬間に、どこからやって来たのか？



世界中で何十億人が今目覚めているが、彼らも同じ体験をしているはずだ。「そうか、私達の“意識”の**大本**(おおもと)。それが神様だ！」と思った。

神様とは、私たちの“意識(心、精神)”がやってくる「本体、出発点」だ。それは、ただ単に人々の“意識”を集めてまとめたものではない。それだと“物質”と同じ存在のやり方になってしまう。物質とは別次元の、私たちには分からない様式で存在するのである。例えばそれは私の中にあると同時に、隣人の中にもある。神様という**本体**から分け与えてもらっている。当然この**本体**は時間と空間を超えている。宇宙が始まる前からあったはずだ。神様の何らかの意思あるいは意図が働いて、この宇宙は存在を始めた。この世は神様の意志のもとに、ここにこうして存在している。私もあなたも存在している。

どの人にも“心、精神、意識”がある。時々それが通じ合うことがある。**大本**が同じだからそれができる。私はあなたを愛することができる。あなたもできる。それは共通の神様から流れ出たものだから……。デカルトをもしれば「我、精神あり。故に神あり」というわけだ。

しばらくこのアイデアに取りつかれた。全てが分かったつもりでいた。「**意識の大本が神様だ**」と考えることは私を安心させた。だが「それで、今後どう生活したらよいのか？」という答えが出たわけではない。何をなすべきかは相変わらず分からなかった。

そんな時『聖書』を読み、「あっ、ここに全てが説明されている！」と思った。でも、すぐにキリスト教徒になったわけではない。多くの神秘と奇蹟を目にしなければならなかった。理詰めで考える人間には、そういう道しかなかったのである。今私は、あの若い時のささやかな体験が全ての出発点になったのだな、と思っている。(続く)

# 10:30~ 主日礼拝

前奏		
招詞	イザヤ書40章31節	司会者
讚美	「アドナイ・エレ（主の山に備えあり）」	〈起立〉一同
//	「今こそキリストの愛に應えて」	//
祈禱		〈着席〉司会者
使徒信条		〈一同〉司会者
聖書	ヨハネによる福音書6章28節	司会者
讚美	「主の教えを喜びとし」	一同
メッセージ	「祈ることの難しさ」	衛藤陸雄
讚美	新聖歌345「沖へいでよ」	一同
主の祈り		〈一同〉司会者
献金	新聖歌343「罪に満てる世界」	林田耕治
報告		司会者
頌栄	新聖歌63「父、御子、御霊の」	一同
祝禱		
後奏		
当番：衛藤照子	司会：立石才子	奏楽：林田・立石
メッセージ：衛藤陸雄		献金：林田耕治



※お体の具合の悪い方は座ったままで結構です。

## 次週（8月5日）主日礼拝奉仕者

当番：立石才子      司会：衛藤照子      奏楽：安武・林田・立石  
特別賛美：林田耕治      メッセージ：齋藤篤牧師（Video）      献金：立石才子

## 報告 7/31 (水) PM7:00 徳力市民センターにて、ゴスペル教室「みんなのゴスペル」を行

います。講師は、ゴスペルシンガーの「マナ」さんです。（※参加費：-人1,000円 連絡：080-3905-7203 林田まで）

※ 企救市民センターの改装工事に伴い、徳力市民センター（TEL 093-963-0158 小倉南区南方2丁目5-37

<http://www.ktcc01.net/mina/ktcc/access.html>）にて行います。 徳力市民センターアクセスQRコード →



来週8月5日、聖餐式を行います。祈りをもって準備いたしましょう。

## 祈り ※共に祈りあいましょう。祈りは油であり、灯の源です。

- 1、熊本地震で被害を受けた方、復旧に働いておられる方のために！
- 2、東日本大震災で亡くなられた方、原発の被害にあわれた方、避難されている方、奉仕されている方のためにお祈りいたします。
- 3、日本と諸外国との色々な問題が、主によって速やかに、また私たちの思う所、願う所を超えて益となる解決がなされますように！



先週の礼拝人数

男性8名

女性6名

計14名